



問 「アレルギーの漢方治療とは

どの薬が効果的ですか？」①

答 花粉症など、アレルギーの病気に
対する漢方治療について、お話し
ます。今回は、小青龍湯を紹介し
ます。

小青龍湯は、傷寒論と金匱要略
という、漢方で最も重要な古典で紹介
されています。構成生薬は、麻黄、
芍薬、細辛、乾姜、甘草、桂枝、
五味子、半夏です。

「風邪などの感染症の経過中、胃
のあたりがむくんで、からえずき
があり、発熱して、せきが出る、あるいは
ノドが乾く、あるいは下痢する、あ
るいは尿が出にくくなる、といった症
状があり、下腹もむくんで、たんのか
らんだせきをするときには、小青龍
湯が有効である」「せきが止まら
ず、寝るときに、横になることができ
なくて、なにかにもたれて、上半身を

少しななめに起こした状態でしか休
めないときには、小青龍湯が有効で
ある」などの記載があります。

図は、江戸時代に発刊された「腹
証奇覽」に掲載されている小青龍湯
の腹証図です。お腹の上の方に所見
があります(A)。水の流れが悪く
なって、むくんでいることを表して
います。胸にも所見があります(B)。
これも、水の流れが悪くなって、た
んがたまっていることを表していま
す。この状態に小青龍湯を投与して、
水の流れをととのえるのですが、余
分な水を排出するのに、いくつかの
経路を利用します。①半夏のはたら
きで、余分な水を下におろして、尿
として出します。②桂枝と芍薬のは
たらきで、皮膚の表面から汗として
出します。③麻黄と桂枝のはたらき
で、気道に作用し、たんや鼻汁とし
て排出します。

花粉症(アレルギー性鼻炎)では、
水の流れが悪くなっていることが多
く、小青龍湯を服用すると、主に③の
作用により、詰まった鼻がすっきりし
ます。小青龍湯は、せんじ薬として処
方することもありますが、粉末(エキ
ス剤)といいますが、錠剤(これもエキ
ス剤です)でも、割と速く効果が出ま
すので、粉末や錠剤を、頓服として処
方することもよくあります。



図1